



三島の文化を紡いだ人々 1

大岡 信

おおおか まこと 昭和6年～平成29年



詩人、評論家。三島田町・奈良橋出身。沼津中（現沼津東高）在学時より歌人であった父などの影響を受け、作歌、詩作を行う。東京大学文学部国文学科卒業後、読売新聞社に入社。『現代詩試論』、詩集『記憶と現在』を刊行。新聞社退社後は、明治大学や東京芸術大学の教授を歴任。著作は300冊を超え、数々の賞を受賞。

平成29年、86歳で生涯の幕を閉じた大岡信さん。詩人や評論家として活躍する傍ら、16歳までの時間を過ごした故郷・三島において、長らく地域活動にも積極的に携わってきました。『文芸三島』への創刊からの寄稿をはじめとする文芸活動に加え、「三島せせらぎ大使」を務めたり、「三島ゆうすいの会」に参加したりと、三島の水に関わる活動にも積極的に取り組みました。国内外に日本語の魅力を広めてきた数々の功績に加え、このような郷土への貢献を評し、平成16年には三島市名誉市民となりました。美術や音楽、映画や演劇、身体表現といった芸術全般を人が生きるなかで発する「ことば」と捉える大岡さんの精神とその教えは、三島にとって大きな財産としてこれからも語り継がれることでしょう。



水辺の文学碑

三島の文化を紡いだ人々 2

小出 正吾

こいで しょうご 明治30年～平成2年



児童文学者、翻訳家。三島の商家に生まれ、三島で育つ。葦山中学（現葦山高）から早稲田大学へ進学し、卒業後は貿易の仕事に従事。その後、大正11年より童話作家としての活動をスタートさせた。明治学院にて教鞭をとる。代表作に『白い雀』、『のるまなローラー』、『雨と太陽』、『ジントラの音』など。

清流の水車、子どもとびまわる竹林寺など、作品のなかで三島の美しい自然や暮らしの良さを伝え続けた小出さん。日本の児童文学界を牽引する存在でありながら、同時に郷土への愛に溢れたひとでした。「子どもの幸福は良き郷土づくりから」「子どもには子どもの世界がある」といった想いを持ち、三島の小中学校を回って童話を語ったり、教育委員長を務めたりと、教育や文化に関わる活動を積極的に行いました。こうした想いは「小出正吾児童文学顕彰会」「三島児童文学を語る会」などの活動を通じて受け継がれています。また、「原水爆反対の会」「三島をよくする会」などの活動にも尽力しました。



小出正吾文学碑

MAP 02 三嶋大社宝物館

北条政子が奉納したと伝える国宝の「梅時絵手箱」（模造復元品を展示）や、重要文化財を含む刀剣・古文書類など、三嶋大社と宮司矢田部家に伝来した文化財を収蔵・展示する。年に2・3回テーマにそった展示を行い、三嶋大社にまつわる歴史と文化を紹介する。梅樹や桜、新緑薫る季節など、折々に姿を変える境内を散策しがてら立ち寄りた。

所 大宮町2-1-5 ☎055-975-0566 (宝物館直通) 9:00～16:30 (入館は16:00まで) 休 年2・3回 (展示替えに伴う展示室休室) ※1階売店は無休
 ¥ 一般500円 / 大学生・高校生400円 / 中学生・小学生300円
 HP http://www.mishimataisha.or.jp/treasure/



shop information
 図録や収蔵品のポストカードなどのミュージアムグッズ、和の雑貨やお土産も！

MAP 03 楽寿園 三島市郷土資料館・楽寿館

三島駅のすぐ南、自然豊かな市立公園「楽寿園」内の施設。郷土資料館は、宿場町三島の紹介を中心に、三島周辺の歴史と生活文化の資料を収集・展示している。楽寿館は1890年頃に小松宮彰仁親王の別邸として建てられたもので、襖絵が見事。



所 一番町19-3 ☎055-971-8228 (郷土資料館)・055-975-2570 (楽寿園)
 4月～10月は9:00～17:00 (最終入園16:30)、11月～3月は9:00～16:30 (最終入園16:00) 休 月曜 (月曜が祝日や振替休日の場合はその翌日)・年末年始
 ¥ 楽寿園の入園料300円 (15歳未満及び学生証を提示した学生は無料) HP http://www.city.mishima.shizuoka.jp/rakujuu/ (楽寿園)
 HP http://www.city.mishima.shizuoka.jp/kyoudo/ (郷土資料館)

MAP 04 日本文学資料館

市立図書館が入る生涯学習センターの2階で、斎藤茂吉の書簡や「アララギ」の自筆原稿などを中心に展示している。資料は茂吉研究の第一人者である歌人の藤岡武雄氏により寄贈されたもの。

所 大宮町1-8-38 ☎055-971-8228 9:30～17:00 休 月曜日 (祝日や振替休日の場合はその翌日) ¥ 入場無料

MAP 05 水辺の文学碑

柳並木の桜川沿い約400mに、12人の文豪による三島にゆかりの作品の一説を記した碑が並ぶ。文学散歩が楽しめる遊歩道。

所 裏面地図参照

(三島駅前) ・大岡信 ・宗祇法師 ・正岡子規 ・十辺合一丸 ・松尾芭蕉 ・若山牧水 ・司馬遼太郎 ・窪田空穂 ・太宰治 ・小出正吾 ・幾野忠 ・井上靖 (三嶋大社側)

MAP 06 三嶋暦師の館

焼き物の模様「三島手」の由来でもある、仮名文字で刷られた暦として日本で一番古いといわれる「三嶋暦」を紹介する施設。代々三嶋暦の製造販売を担っていた河合家の歴史ある日本家屋も見所。三嶋暦印刷体験やガイド案内も。

所 大宮町2-5-17 ☎055-976-3088 9:30～16:30 休 月曜日 (祝日や振替休日の場合はその翌日) ¥ 入場無料

MAP 01 佐野美術館

日本美術を中心に、絵画・工芸・絵本など多彩な内容の展示会を年に7回程度開催し、特に日本刀の展示は全国から多くのファンが訪れる。常設展示室には、創立者・佐野隆一の収蔵品をはじめ日本・東洋の優れた美術品を展示している。美術講座や子供向けのイベントなども多数開催している。四季折々に美しい日本庭園「隆泉苑」も見所。

所 中田町1-43 ☎055-975-7278 10:00～17:00 (入館は閉館時間の30分前まで) 休 木曜 (祝日の場合は開館)・展示替期間・年末年始
 ¥ 展示会により異なる HP http://www.sanobi.or.jp

shop information
 図録やポストカードなど美術館オリジナルグッズや、かわいい和雑貨、人気の刀剣グッズも！

MAP 07 山中城跡公園

富士山と駿河湾を一望できる、緑豊かな史跡公園。戦国時代末期の永禄年間(1560年代)小田原城を守る城として、北条氏康により築城され、天正18年(1590年)、天下統一のため小田原を目指す豊臣秀吉の大軍の前に、わずか半日で落城した。全国的にも珍しい石を使わない土だけの山城で、北条流築城術の粋を集めた「障子堀」や「畝堀」が美しい。日本100名城のひとつ。

所 山中新田 ☎055-985-2970 (売店) 売店 10:00～16:00、(冬季は10:30～15:30) 専用無料駐車場(9:00～17:00) 休 売店 月曜日、年末年始 ※悪天候時などは臨時休業あり ¥ 入場無料



みしぶんマップ

Mishima Culture map



みしぶんのおすすめ散策コース

course A

歩いて楽しむ 文学コース

三島駅南口
徒歩10分

日本文学資料館
徒歩2分

水辺の文学碑・桜川
徒歩3分
寄り道スポット 小出正吾文学碑

TATSU'S GALLERY
徒歩8分
寄り道スポット ララ洋菓子店

せせらぎ散策 (源兵衛川・宮さんの川)

course B

美術館&ギャラリー三味 アートコース

三島駅南口
徒歩10分
寄り道スポット iri 浅井裕介作品 sora

さんしんギャラリー 善
徒歩12分
ちょっと寄り道ギャラリーめぐり
ギャラリー阿咩 chigiri

佐野美術館
徒歩15分
岡部旗店+plus Gallery
田町カフェ
みしまプラザホテルギャラリープラザ
GALLERYエクリュの森

三島駅南口

course C

レトロ建築 & 歴史コース

楽寿園 (郷土資料館・楽寿館)
徒歩10分
寄り道スポット 看板建築 圓明寺

三嶋大社 (宝物館)
徒歩7分
Special course!
バスに乗って山中城跡へ
三嶋大社前バス停から
東海バス元箱根港行きで25分
プラス2時間

三嶋曆師の館
徒歩17分

三島駅南口

三島の文化応援プロジェクト

Culture and Life in Mishima

<http://mishimabunka.i-ra.jp/> みしぶん

お問い合わせ
三島市文化振興課
〒411-8666 三島市北田町4-47
TEL:055-983-2756

三島の文化応援プロジェクトとは?

三島の文化に関するネットワークづくりと情報発信を通して、市民が主役となって文化を楽しんでいくための機会づくりを応援するプロジェクトです。

看板建築とは?

関東大震災後の東京近辺で作られるようになった商店建築のスタイルで、木造商店の前面を板金やモルタルで装飾した建物を看板建築と呼びます。全体を銅板で囲んだような建築スタイルは、懐古堂ムラカミ屋 (旧村上洋品店) などに残っています。



懐古堂ムラカミ屋

高橋綿店

※掲載の情報は2018年2月末現在のものです。

- アートスポット
- 文学スポット
- 歴史・建築スポット
- せせらぎ号バス停
- 1 ~ 5 山中城跡方面行きバス停